



葉かび病への効果の高さは、とりわけ印象的。
早め早めのタイミングで予防だね。

熊本県八代市 矢鉾 次義さん(44歳)

農業歴23年のベテラン野菜農家。トマト(桃太郎はるか)35a、アスパラガス10aのほか、はくさい、キャベツ、なすなどを作付。



長年野菜づくりを手がけてきた矢鉾次義さんは、昨年から、11棟のハウスで「はちべえトマト」の栽培をはじめています。トマトを植えてはじめての年は病気が出やすいから、葉かび病と疫病の予防を心がけた、という矢鉾さん。スコア顆粒水和剤(以下、スコア)、フォリオブラボ顆粒水和剤(以下、フォリオブラボ)、アミスターオプティフロアブル(以下、アミスターオプティ)の3剤で、まずは取組みをスタートされています。

「スコアとアミスターオプティは葉かび病対策で、フォリオブラボは疫病対策。ハウス栽培は病気の感染リスクが高いから、いかに広がるのを抑えるかが重要だね」。

矢鉾さんは、10月中旬にスコアの2000倍液、10月下旬にフォリオブラボの1000倍液、11月中旬にアミスターオプティの1000倍液を、それぞれ散布。3剤とも満足のいく結果を得たとのこと。なかでも矢鉾さんの印象に残ったのがスコアです。

「10月は雨が多かったせいか、葉裏に葉かび病の斑点が出始めた。そこでスコアまいたら、その後症状が見事にピタッと止まったんだよね。もう少し早めにまいておけば、葉かびをバッチリ予防できるはず。だから、今年は早め早めのタイミングでスコアを使うつもり」と笑顔で語っていただきました。



syngenta.

シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワーX 21階
<http://www.syngenta.co.jp>

農業をご使用の際は、ご購入先、または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標 TMはシンジェンタ社の商標

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●薬剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器、空袋等は圃場などに放置せず適切に処理してください。

※2007年2月21日現在の情報です。